

ILLシステムと外部システム の連携・棲み分け

放送大学学園
情報部図書情報課
磯本 善男

2024.11.20(水)

国大図協会システム委員会のサイト

<https://www.janul.jp/ja/projects/sisc>

システム委員会

設置要項

※第68回総会にて設置決定。学術情報システム委員会から事業を引き継ぎ。（令和3年6月25日 第68回総会承認事項）

- [委員会設置要項（令和4年6月23日）](#)

活動報告

- [令和5（2023）年度活動報告](#)
- [令和4（2022）年度活動報告](#)
- [令和3（2021）年度活動報告](#)
- [令和3（2021）年度活動報告（中間報告）（令和3.11.12）](#)

報告書

- 「令和3年度図書館のシステムに係る事例の共有に向けたアンケート」各会員館における取り組み事例集⁶
 - 上記事例集の情報は令和4年1月時点のものです。「図書館をDX（ヘンカク）する～システムに係る事例・情報共有サイト～」では、情報の一部を更新して掲載しています。

実施企画

- 「電子資料共有のための基礎知識：ILL・著作権・発見可能性」
- [図書館をDX（ヘンカク）する～システムに係る事例・情報共有サイト～](#)

あらためてILLとは？

図書館員の倫理綱領 (図書館間の協力)

第10 図書館員は図書館間の理解と協力につとめる。

図書館が本来の目的を達成するためには、一館独自の働きだけでなく、組織的に活動する必要がある。各図書館は館種・地域・設置者の別をこえ、理解と協力につとめるべきである。図書館員はこのことをすべて制度上の問題に帰するのではなく、自らの職業上の姿勢としてとらえなければならない。図書館間の相互協力は、自館における十分な努力が前提となることを忘れてはならない。

あらためてILLとは？

国立大学図書館におけるNACSIS-ILLシステム利用指針

国立大学図書館協議会第44回総会採択(1997.05.29)

https://contents.nii.ac.jp/catill/manuals/ill/mannual/law/anul_960703

(システム利用に当たっての基本原則)

2.参加組織は、資源共有の理念に基づき、所蔵資料の提供について最大限の努力を行なうものとする。また、相互協力の精神に則って、誠意を持って迅速に対応する。

(所蔵情報の公開)

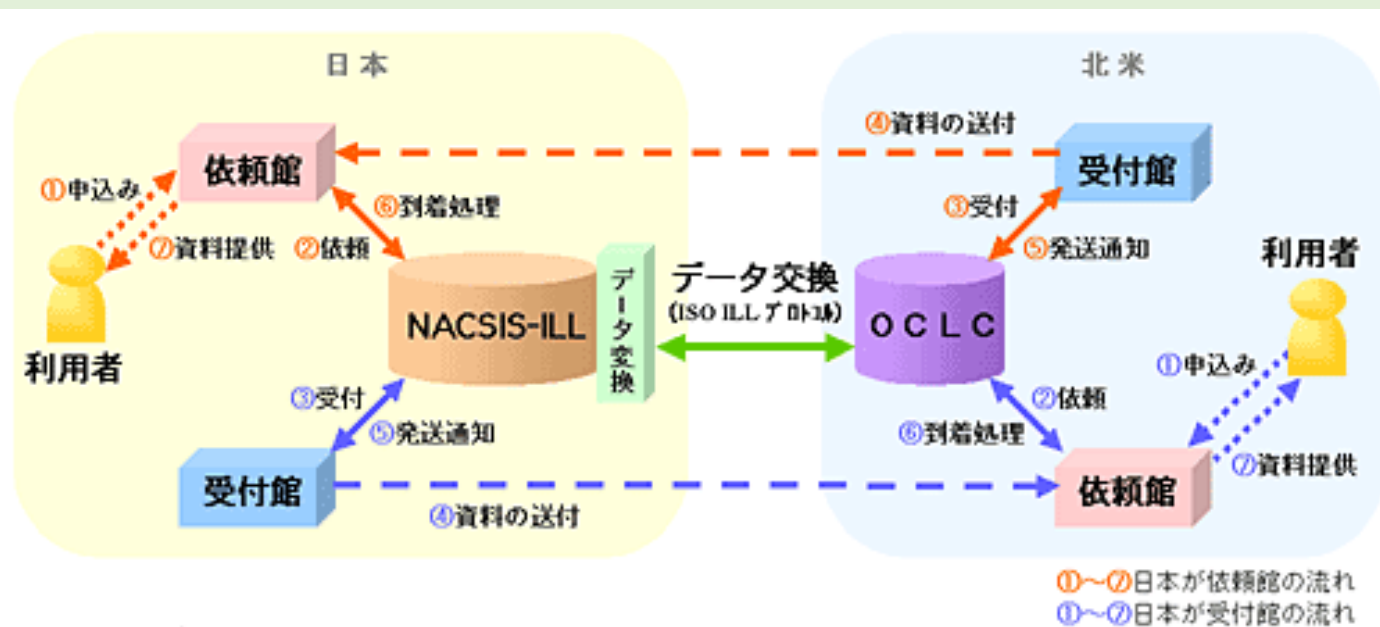
4.参加組織は、提供できるすべての資料の所蔵情報を学術情報センター総合目録データベース(以下「総合目録データベース」という。)に登録し、他の参加組織から検索できるように努める。特に総合目録データベースに未登録である目録データの遡及入力に努める。

4

ILL概念図



・従来からのNACSIS-ILL処理のフロー



・グローバルILLによるILL処理の追加部分
日米ILLは2018年3月末、日韓ILLは2022年3月末をもって終了いたしました。

国立情報学研究所
目録所在情報サービス
ILL概念図

<https://contents.nii.ac.jp/catill/about/ill/diagram>

5 NACSIS-ILL利用統計

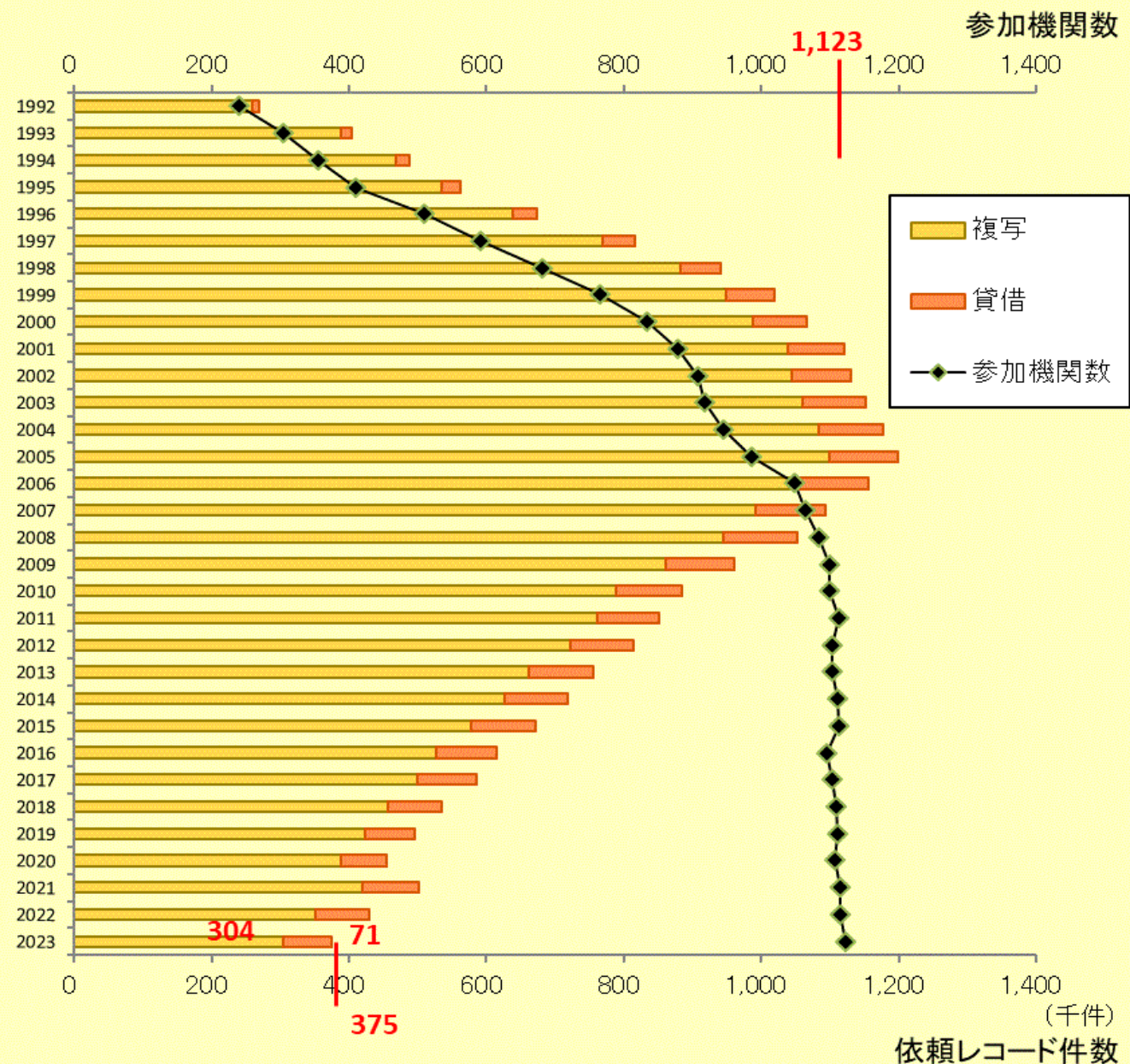
国立情報学研究所 目録所在情報サービス
NACSIS-ILL利用統計

<https://contents.nii.ac.jp/catill/stats/ill/reqnum/transition>

件数はピーク時の1/3程度
現場の負担感は減少しているか？

参加機関数及びNACSIS-ILLによる依頼レコード件数の推移

(2024年3月末)



資料費等の変遷① 学術情報基盤実態調査より

平成25(2013)年度

令和4(2022)年度

H25年度比

図書受入数（点）			
	和	洋	計
合計	4,755,039	1,057,445	5,812,484
総平均	6,104	1,357	7,461

図書受入数（点）			
	和	洋	計
合計	2,978,647	452,808	3,431,455
総平均	3,668	558	4,226

59.0%

図書資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	13,678,629	7,230,992	20,909,621
総平均	17,559	9,282	26,842

図書資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	8,688,121	3,494,992	12,183,113
総平均	10,700	4,304	15,004

58.3%

電子書籍資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	329,320	614,517	943,837
総平均	423	789	1,212

電子書籍資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	1,274,989	1,078,541	2,353,530
総平均	1,570	1,328	2,898

249.4%

資料費等の変遷② 学術情報基盤実態調査より

平成25(2013)年度

令和4(2022)年度

H25年度比

雑誌受入数（点）			
	和	洋	計
合計	832,944	208,322	1,041,266
総平均	1,069	267	1,337

雑誌受入数（点）			
	和	洋	計
合計	480,500	90,329	570,829
総平均	592	111	703

54.8%

雑誌資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	4,551,649	9,927,802	14,479,451
総平均	5,843	12,744	18,587

雑誌資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	3,732,871	6,159,811	9,892,682
総平均	4,597	7,586	12,183

68.3%

電子ジャーナル資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	986,605	23,609,267	24,595,872
総平均	1,267	30,307	31,574

電子ジャーナル資料費（千円）			
	和	洋	計
合計	1,302,644	34,135,356	35,438,000
総平均	1,604	42,039	43,643

144.1%

現場の負担感は？（事前アンケートより）

- 【貸借】貸借での貸出期間での比較（延長可否含む）
- 【貸借】付帯条件の確認（館外持出不可、等）
- 依頼館調査（所蔵の有無、対応可否、料金）
- 現金の取扱い
- 会計処理（相殺に関するものを含む）

利用者からよく聞く要望は？（事前アンケートより）

- 【複写】紙ではなく電子ファイルでほしい
- 事前に料金が分かるようにしてほしい
- お金がかかっても良いので早急に入手したい

NACSIS-ILLについて改善してほしい点は？ (事前アンケートより)

- 各館所蔵状況の可視化
- 電子資料利用条件の可視化
- 料金の可視化
- 電子媒体(個人版/機関版含む)へのリンク

ある大学に、海外の大学から赴任された先生のご意見：

「こんな基本的な（電子）ジャーナルを購読していないなんて大学としてありえない。

購読しないならこの大学で研究することはできない。」

- DDS (ドキュメント・デリバリー・サービス)
 - Reprints Desk 米国 Research Solutions社
 - Article Galaxy 米国 Research Solutions社
 - RightFind® 米国 Copyright Clearance Center (CCC)
 - ARROW 日本 サンメディア社

etc.

- ※ 論文を個別に提供 (購読) する
- ※ 即時入手できる場合も
- ※ 料金はILLに比べ割高
- ※ 著作権処理料金等が上乗せされる場合も

•RapidILL ExLibris社

- 参加館の間で電子ファイルでやり取りを行うILLシステム

※ 参加館が年間使用料を払い、参加館の間で料金のやり取りは発生しない

※ 依頼館の選定はシステムが自動で行う

※ 参加館は受付する分量をある程度制御できる

導入している/導入したい外部サービスは？ (事前アンケートより)

- 既に導入しているサービスとしては、**DDS**が多い
- 導入したい(興味がある)サービスとしては、**RapidILL**が多い

必要な要件を考える①

「事前に料金が分かるようにしてほしい」という要望にどう応える？

- ・RapidILLのように参加館の間で料金の発生しない年会費制のシステムを構築する
- ・1件毎の定額制にする(送料も含めて)
- ・DDSサービスを基本とする

必要な要件を考える②

「紙ではなく電子ファイルでほしい」という要望にどう応える？

- ・今の日本では(特に国内の刊行物は)難しい？
- ・海外の電子ジャーナルなら、DDSやプラットフォームから直接購入することができる(ただし割高)
- ・RapidILLで対応することも選択肢

必要な要件を考える③

「受付可否」等をどう表現する？

- ・図書館と研究室の貸出条件は同じか
- ・モノクロ/カラー対応は
- ・速達、FAX、DDSの対応は（当日の受付時間は？）

※自館でこれらを正しくデータに反映させることができるか、そのために必要なシステムの要件は？

今後の展望は

- 2022年時点の全世界のOA化率は56.2%

※科学技術指標2024 / 科学技術学術政策研究所より

https://www.nistep.go.jp/sti_indicator/2024/RM341_44.html

- ILLに頼らずに入手できる論文が増えていく？
→ OA論文へのナビゲートが重要

※ 今後はバックファイルの整備が重要になる？

選択肢をどこまで広げる？

- 機関版の電子書籍は紙の書籍の1.5～2倍の価格だが、個人版はほぼ同じ価格
- 令和4年の書籍新刊平均価格は1,268円

※総務省統計局「日本の統計」より

→往復の送料を負担して現物貸借を依頼するより、個人版の電子書籍を買った方が安価になる場合も想定できる。

- ILLは図書館間の相互協力を意味するものだが、その枠組みだけでは利用者のニーズに応えることは難しくなっている
- 論文単位での購入や新たな枠組みの創出等、選択肢は1つではない
- 既存のNACSIS-ILLは今後もILLの基本であり続ける(希望的観測か?)
- 利用者のニーズに応えるために必要な要件は、各機関により異なる(はず)ので、その最大公約数的なところを探る。

“図書館資料は資産ではなく、負債”

図書館資料は、研究教育に活用し、成果に結びついて初めて価値を持つ。

ただ保存しているだけの資料は、むしろ維持費のかかる負債として認識すべきではないか。

Libraries Transform?

山本和雄『電子書籍を契機とした図書館機能の強化と革新に向けて』

2017.12.15 国立大学図書館協会地区協会助成事業による研修会

「発展途上! 実際どうなの? e-BOOK」

スウェーデンの政策

- 2010年：1人1台のデジタル端末を持つプロジェクトを推進
紙の教科書を原則廃止
- 2016年～：児童の読解力低下が顕在化
- 2023年：印刷教材の使用を重点化

ご清聴ありがとうございました